

## 関連計画等における公会堂に関する記載

### ■第六期長期計画（令和2年4月策定） ※参考資料2

#### (P104) 都市基盤 基本施策6 活力とにぎわいのある駅周辺のまちづくり

##### (1)吉祥寺駅周辺 ②エリア特性を生かしたまちづくりの推進

（前略）パークエリアについては、南口駅前広場の整備事業を推進し、歩行者とバスなどの車両が輻輳するパークロードの交通環境の改善や、北口駅前広場を含む駅周辺道路の交通体系の再編について検討する。また、駅から都立井の頭恩賜公園に向かう新たな歩行者動線の整備について検討を進める。武蔵野公会堂については、武蔵野市文化施設の在り方検討委員会での検討を踏まえ、周辺街区のまちづくりの動向を注視しつつ、エリアが抱える地域課題の解決に向け、まちづくりの構想とともに一体的な検討を進める。

### ■吉祥寺グランドデザイン 2020（令和2年4月策定） ※参考資料3

#### (P24～25) パークエリアのまちづくり

##### ○南口駅前の顔づくり

・老朽化建物の補強・リノベーション

武蔵野公会堂を含む駅周辺の老朽化建物への対応は喫緊の課題です。条件によって、建物の補強・リノベーション・更新（共同化を含む）を使い分けて、防災性の向上を図ります。

##### ○南口駅前および周辺一帯の市街地再編

長期的には、駅前だけでなく、井ノ頭通りを挟んだ武蔵野公会堂も含めた面的な市街地再編を視野に入れ、武蔵野公会堂敷地を活用しながら、雑然とした駅前及び周辺一帯を再生して、公園に向かう玄関口にふさわしい本格的な空間づくりをするとともに、抜本的な交通環境の改善による井ノ頭通りの交通負荷を軽減します。

### ■文化施設の在り方検討委員会報告書（令和3年6月公表） ※参考資料8

#### (P31～32) (2)当面の文化施設の活用等について

##### ①音楽ホール(市民文化会館大ホール・小ホール、公会堂ホール、スイングホール)の活用

鑑賞の場としての市民文化会館、発表、実演又は育成の場としての公会堂、スイングホールという一定のすみ分けはなされていると考えられる。当面は施設を維持しつつ、必要に応じて施設の機能の更新を行い、文化事業団の強みを生かした鑑賞事業の展開や発表・実演の場としての活用を図ることが望ましい。

その中で、公会堂は、JR中央線と京王井の頭線の交通の結節点である吉祥寺駅前に立地し、市民の発表の場、芸術文化事業の提供の場として長年にわたり使われてきており、市民の利用経験も多く、認知度や期待度も高い。引き続きこのエリアにおいて市民文化の交流拠点・発信拠点としての機能を有していくことが期待される。ただし、設備の老朽化や、エレベーターが無くバリアフリー化されていないといったハード面での課題があり、まもなく築60年を迎え、施設の更新も視野に入るところである。一方、令和2年度に建物の構造躯体の健全度調査を行ったところ、所定の基準を満たしていたとのことであるため、設備・機能の更新による施設の延命化も選択肢の一つになると考える。

また、今後さらに耐震性や更新費用、上記でまとめた文化施設に求められる機能を踏まえ、施設周辺全体のまちづくりと整合を図りつつ総合的に検討・評価を行っていく必要がある。

##### ④会議室等(市民文化会館、公会堂、芸能劇場小ホール、スイングホールスカイルーム、かたらいの道市民スペース)について

会議室は様々な文化的活動に使われているが、防音等の設えの問題もあり、芸術文化的な活動での利用は限られている。文化施設の中に併設されている会議室ならではの相乗効果を生み出す利用方法等も検討しながら、制度や備品等を整えることにより、可能な範囲で、芸術文化

的な活動にも利用しやすくなるように検討していく必要がある。また、会議室としての需要は、コロナ禍によるニーズの変化も踏まえつつ、生涯学習や市民活動の視点も含めて全体的な整理を行っていく必要があるだろう。

### ⑤音の出せる活動場所について

市民文化会館の練習室、吉祥寺美術館の音楽室等、音の出せる活動場所については、いずれも利用率が高い。しかしながら、防音や動線の関係で、一部制限がある施設もある。例えば公会堂の改修が可能となった場合に、そのような場を設け、より文化施設としての機能を向上させることも考えられる。

## ■NEXT吉祥寺 2021 (令和3年9月策定) ※参考資料4

### (P17) (1)-3武蔵野公会堂を含むパークエリアの将来像立案

令和5(2023)年度に築後60年目を迎える武蔵野公会堂は、市民等の認知度も高く、利用経験者も多い文化施設です。引き続き市民文化の交流拠点・発信拠点としての機能を有していけるよう、パークエリアのまちづくりの将来構想とともに一体的な検討が不可欠です。

吉祥寺が抱える交通課題の解決に向け、面的な市街地再編も視野に入れつつ、駅周辺に求められる都市機能を検討します。

パークエリアの可能性を引き出すための社会実験もあわせて実施し、パークエリアの将来像を立案します。

## ■武蔵野市都市計画マスタープラン 2021 (令和3年9月策定) ※参考資料5

### (P6-5) <パークエリア>

井ノ頭通り(3・4・3)は、広域交通を担う幹線道路であるとともに、交通結節点としてバス乗車場の役割を有しています。計画幅員14.5mの都市計画道路として完成していますが、2つの役割に対し十分な空間となっていません。また、井ノ頭通り(3・4・3)を横断する歩行者交通量が多く、車両の混雑や歩行者の滞留空間が不足していることから、引き続き南口駅前広場の整備を進めるとともに、面的な市街地再編も視野に検討を進めます。あわせて、武蔵野公会堂の高経年化は喫緊の課題であるため、交通課題の解決に向けた検討内容や武蔵野市文化施設の在り方検討委員会の提言内容を踏まえ、更新の時期や手法について検討を行います。

## ■文化施設整備計画 (令和4年3月策定) ※参考資料9

### (P13) 第4章 今後の対応方針 2個別施設について (2)公会堂

- ・今後の更新方針の検討にあたっては、実現可能な改善案として、改修計画案(改善案Ⅰ)、一部増改築案(改善案Ⅱ)、全面改築案(改善案Ⅲ)を立案し、比較検討しました。ただし、将来の施設周辺の面的整備を想定し、施設の使用期間を20年程度と設定しました。①経済性、②まちとのつながり、③安全・安心という考え方にに基づき、これらの改善案について比較検討を行いました。改善案Ⅰは各項目で課題が残り、改善案Ⅱは比較的バランスが良く、改善案Ⅲは経済性における課題が大きく、改善案Ⅱの優位性が高いと考えられます(資料編参照)。
- ・今後、有識者などを含めた検討委員会などを設置し、改善案Ⅱについて具体的な検討を行うこととします。市民意見を踏まえながら、利用上の課題や市民ニーズをとらえて検討したうえで、基本計画を策定します。
- ・ホールは市民の発表の場でもあり、引き続き市民文化の交流・発信拠点としての機能を有していくことが期待されています。エレベーターや誰でもトイレなど、ハード面での課題を解消するとともに、会議室や和室が代替している控室やリハーサル室などの設置を検討します。